

第18回中国地方ダム等管理フォローアップ委員会

灰塚ダム建設事業の事後評価書の総括

1. 今後の事後評価の必要性

- ・ 費用便益比は、1.9である。
- ・ 灰塚ダムは、平成18年4月の試験湛水完了以降、4回の洪水調節を実施し、下流河川の水位低減に効果があった。
- ・ 平成20年の渇水時をはじめとして、灰塚ダムから流水の正常な機能の維持や上水道用水のための補給が行われ、下流河川の流況改善が図られている。
- ・ 灰塚ダム建設による環境への大きな影響はない。
- ・ ダム湖上流部に整備したウェットランドでは、新たな湿地生態系が形成されつつある。
- ・ 富栄養化対策として曝気循環装置等の水質保全対策を実施しており、その効果が認められるが、毎年アオコが発生する状況にある。
- ・ 灰塚ダム建設前後での、大きな社会情勢等の変化は見られない。
- ・ 灰塚ダムでは、ハイヅカ湖地域ビジョンが策定されるとともに、見学やイベント等による灰塚ダム・ハイヅカ湖の利用が進められている。
- ・ 以上のように「灰塚ダム建設事業」の効果が発現し、大きな社会情勢等の変化もなく、環境への大きな影響も見られないことから、改めて事後評価の必要性はない。

2. 改善措置の必要性

- ・ 事業効果の発現が確認されており、環境への大きな影響も見られないことから、改善措置の必要性はない。アオコの発生が見られるため、今後も引き続き発生状況を調査・分析し、ダム等管理フォローアップ委員会に諮るものとする。

3. 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直し等の必要性

- ・ 特にない。